

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600421		
法人名	特定非営利活動法人よりあいの会		
事業所名	グループホームよりあい		
所在地	宮崎県日向市大字平岩8624番地1		
自己評価作成日	平成27年8月16日	評価結果市町村受理日	平成27年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&jisyosyoCd=4570600421-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりとした時間の流れの中で生活し、利用者一人ひとりに合った過ごし方をさせていただいている ・施設しないオープンな施設である ・利用者一人ひとりに合わせた食事の提供を行っている ・開設時から毎月ホーム便りを家族に送付し、喜んでいただいている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年、年度末に全職員で話し合い決めた理念に基づいて、利用者の支援を行っている。中でも特に「家族との絆」に力を入れており、開設以来毎月発行される「ホーム便り」は利用者や家族の絆をつなぎ、家族のニーズに応じた連絡手段により密に交わされる連絡は、家族とホームの絆を深め、信頼を強める役割を担っている。
また、地域に開かれたホームとして、地域とのかかわりにも力を入れており、地域の避難訓練に利用者と共に参加したり、近隣の高校から先生を職場体験の実習生として受け入れるなど、ホームへの理解を得るよう地域との連携を積極的に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で事業所理念を考え、職員会議や朝のミーティング等で常に確認、共有し、実践につなげている。	年度末に全職員で理念を掘り下げて話し合い、現状に合った理念にし、常にそれを念頭に置き、サービス提供に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域住民とのつながりを持ち、気軽に施設に足を運んでもらえるよう努めている。	自治会に加入し、利用者と共に避難訓練などの地域行事に積極的に参加している。また、近隣の高校から先生を職場体験実習生として受け入れるなど、ホームへの理解を得るよう地域との連携を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で出席者に認知症の体験をしていただいたり、機会があれば地域への出前講座も積極的に行っていく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、積極的に出席者からの意見を引き出し、出された意見や要望については早期に検討し、サービス向上に活かせるようなしくみ作りを行っている。	定期的開催し、状況報告などを行い、出された意見をサービス向上に生かしているが、曜日設定等の問題があるのか、地域包括支援センター職員の出席がない状況が続いている。	運営推進会議を一層充実させるため、地域包括支援センター職員の参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議の際はもちろん、常に施設の実情やサービス内容を伝え、行政との協力関係を築くよう取り組んでいる。	定期的に関係機関を訪問し、顔なじみの関係を構築するよう努力しており、何かあれば連携しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、開設当初から行わない方針を貫いており、「身体拘束」の正しい理解を職員全員が行っている。また、身体拘束を行わずにできる介護方策について、職員会議や朝のミーティング等で日ごろから考え、実践している。	常に、家族と身体拘束について話し合うことで理解を求め、拘束のないケアに努めている。また、玄関は施錠されておらず、職員が見守りながら外出に同行するなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会には必ず出席し、その都度復命講習をもって職員間で虐待防止について正しく理解し、見過ごさないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や職員研修会を通じて、日ごろから日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解と知識を得るよう努力し、必要がある場合は社会資源として活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改訂時には、利用者や家族に安心して利用していただくための十分な説明を行い、理解、納得していただいた上で、承諾の署名、押印をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月発行しているホーム便りを利用したり、運営推進会議や面会時に意見や要望を出していただくよう努めている。	電話・メール・手紙など、家族の状況に応じた連絡手段で、連携が取りやすい環境を整えている。また、運営推進会議に出席する家族が多く、出された意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティング及びヒヤリハットの積み上げ等で、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。	職員が意見や提案を出しやすいよう、職員会議やミーティング以外でも、管理者が声掛けをしている。また、職員も意見が取り上げられ、反映されることで、より良いケアにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況等に常に気配りをし、やりがいと向上心を持てるような働きやすい職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりが自分の力量を発揮できるよう、個人に合った研修を受講する機会を設け、また、積極的に受講するよう促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は質の向上にもつながるので、機会があれば積極的に交流できるように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添うケアを目指しているため、初期の段階では常に利用者の声に耳を傾け、安心感を得ていただき、職員との良い人間関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階での家族の不安、要望について傾聴し、お互いの良い人間関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階での本人、家族が必要としている支援を見極めていくのは困難であるが、できる限り必要と思われるサービスは取り入れ、よりよいサービス利用に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に常に寄り添い、向かい合うよう日々の介護を行うようにしているため、お互いにともに過ごし、支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は最も大切なことで、「本人を家族とともに支えあう」ことは、理念にも掲げているように大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで本人と関係のあった方には、いつでも施設に足を運んでもらうことで、馴染みの方と過ごせたり、また、馴染みの場所に行けるよう支援している。	なじみの知人などが、いつでもホームに来て継続的な交流ができるよう働きかけている。また、出身地区の祭りに参加できるよう支援したり、他の利用者もそこに同行するなど、仲間づくりの輪も広げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、意図的に利用者同士が助け合い、支えあっていける活動を作り、助け合い、支えあいの場面も多く見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要があれば連絡したり、経過をフォローするなど、関係を絶つことの無いよう、また、いつでも困った時には相談できる場所であることを意識付けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、少しでもその思いがかなえられるように支援している。	日頃の会話や態度から思いや意向を引き出せるように、常にアンテナを高く耳を傾けることに気を付けながら、情報を得よう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や生活環境を大切に、これまでのサービス利用の経過を把握し、大きく変化しないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの力が十分に引き出せるよう支援し、また、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をチーム(本人、家族、職員)で作成することで、色々なアイデアや意見を組み込んで、より良い介護計画を作成している。	担当職員を中心に、利用者の状況を把握し、また、家族の意見や要望も把握しながら、介護計画に反映させている。また、作成の際は本人も参加し、細かく意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は利用者の様子を観察する目を養い、記録に的確に記入することで情報を共有し、実践と記録が介護計画の見直し等に生かされるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われないことのないよう、常に柔軟性を持ち、いろいろなサービスが展開できるよう努めている。		

宮崎県日向市 グループホームよりあい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源を把握し、必要な時に直ぐに提案できるようにしている。なお、あらゆる地域資源の方々と日ごろから顔の見える関係作りを行っており、実際に協働する時に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を前提とし、かかりつけ医と事業所の密な連携のもとで、本人の病状に適した医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は基本的に家族対応となっているが、できないときは職員が対応して、普段の様子や変化を伝えるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は毎日のバイタルチェックで異常に気づき、職場内看護職との連携で、早目の受診を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入・退院時には、スムーズに移行できるように、医療機関と情報交換や相談を行うことで、医療関係者との良い関係作りができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」について十分に説明している。なお、早い段階から本人、家族との話し合いを持ち、事業所でできることの説明を再度行い、安心して終末期を迎えられるよう支援している。	利用契約時と必要に応じ早い段階から話し合いを持ち、本人や家族の意向を踏まえて、安心して納得した終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に心肺蘇生法の講習を受けたり、緊急時の対応の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一回、火災、地震、津波訓練を行い、全職員が実際の災害時に対応できるようにしている。今後は夜間訓練も実施していきたい。	月1回のホームでの訓練及び地区主催の避難訓練に利用者とともに参加している。火災を出さないことを重視し、火元となる場所の定期チェックを行っている。また、夜間想定訓練を予定している。	夜間災害に対して、近隣住民を含めた避難誘導等の協力体制を整えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉かけや対応は、人格の尊重とプライバシーの確保を基本に、常に気をつけている。	援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に考え言葉かけをしたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。新人職員もいるので、マニュアル作成を検討している。	新人研修マニュアルを完備し、それに沿った研修を実施することで、一層の資質の向上を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の日ごろの思いや希望を語ることができるよう、また、自己決定できるよう促し、その本人の決めた事柄を職員が実践できるよう担当制を決めて実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所や職員の都合に合わせてではなく、利用者一人ひとりの過ごし方にあわせて、その人らしい暮らしを支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれや身だしなみには常に気をつけ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう季節ごとに食器を変えたり、いろいろと工夫している。下膳はできる方には手伝っていただいている。	メニューは利用者と相談しながら決め、食事が楽しめるように食器や盛り付けに工夫がなされている。また、利用者と職員が同じ食卓を囲み、楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個人別に記録し、きちんと栄養とバランスが取れているかを確認している。また、好みの物を把握し、時々メニューに加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、毎回口腔ケアを実施し、口腔内の状態を把握している。また、できる方には毎回声かけにより口腔ケアをしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。	おむつを使用する利用者も、日中はトイレで排せつできるように支援している。利用者の仕草を把握し、尿意や便意を見逃さないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に状態を細かく記入し、現状把握を行いながら便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴の希望を優先し、入浴をゆっくり楽しんでもらえるよう支援している。	楽しんで入浴ができるよう、時間・順番など利用者の要望を受けながら、支援している。開設当初から、お茶がら湯を取り入れたり、時には近くの温泉に出掛けるなど、入浴が楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう声かけをしたり、室温等にも気をつけて気持ちよく眠ることができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬を、職員は確実に把握しており、服薬の支援と誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中でそれぞれが役割を持ってもらい、生き生きとした日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、外出の機会を作り、家族と一緒に出かけたり、職員と地域の行事に出かけるなど支援している。	歩行困難な利用者も、車いすを利用し、戸外に出ることを積極的に支援している。また、できるだけ季節に応じた外出や毎夕15分程度近所を散歩するなど、家族の協力を得ながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものはないか、利用者に常に声をかけをし、職員と一緒に買い物に行く機会を持つよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙を書いたり、メールのやり取り等を行う支援を毎月行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くようなものは取り除き、一人ひとりが落ち着ける場所になるよう気をつけている。	居間、台所、食堂が同じフロアになっており、大きな掃出し窓の外にはテラスを設置し、開放感がある。また、ソファやマッサージ器などを配置し、利用者がゆったりと落ち着けるスペースになるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	常にゆっくりとできるよう、ソファを置いたり、マッサージ器をおくなどして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が以前から使い慣れた物を持ち込み、利用してもらっている。また、居室は落ち着いて過ごせるよう、その方らしい部屋にしている。	各居室に、本人の使い慣れた家具や趣味の作品が飾っており、本人が居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。また、入り口には、利用者自らが作った個性的なのれんがさげられてあり、部屋の間違い防止にもつながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活する場所が分かるように、それぞれの方に合わせた目印や名前を付けるなどの工夫をしている。		